

## 世界農業遺産への取り組みについて

フォレストピア構想で連携のある、諸塚村、椎葉村、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町の3町2村と関係団体及び県は、「高千穂郷・椎葉山世界農業遺産推進協議会」を今年3月に設立しました。そして、この地域で受け継がれている特色ある山間地の伝統的農林業について、「世界農業遺産」への登録を目指して活動していますので、その取り組みについてお知らせします。

### 1. 世界農業遺産とは

世界農業遺産とは、国連食糧農業機関（FAO）が2002年から開始した、次世代に継承すべき重要な伝統農法や農業文化などを有する地域を認定し、その保全と持続的な活用を図るプロジェクトです。これまで全世界で31地域が認定を受け、日本からは、熊本県の阿蘇地域、大分県の国東半島宇佐地域など、5つの地域が認定されています。

認定された地域では、農家や住民の方々の励みになり、農産物のブランド化等の取り組みが進み、地域を訪れ農業体験やボランティアを行う人が増えるなど、地域活性化が進むことが期待されます。

### 2. 認定をめざすもの『森林によって育まれた本地域の伝統的な農林業と文化』

本地域は険しい山々に囲まれ、平地が極めて少ないという農業に厳しい地域です。ですが、人々は努力を重ね、森林からの恵みを巧みに引き出し、棚田、シイタケ栽培、和牛飼養、茶、焼畑など、特色ある多様な農林業を営みながら、その源である森林を大切に保全管理してきました。今なお伝えられる椎葉村の焼畑、諸塚村のモザイク林層、西臼杵地域の棚田と山腹水路網などはその象徴です。

そしてこの地域は、古事記、日本書紀における天孫降臨の地、そして民俗学発祥の地として、多くの神話・伝説の史跡とともに、野山の至る所に神祠（かみほこら）や野仏が祀られています。人々の信仰は篤く、様々な農耕古神事や、「刈干切唄」「ひえつき節」といった日本を代表する農業労働歌など独特の農林文化が息づくとともに、農林業を通じて育まれた地域連帯の中で、長い伝統を持つ様々な「神楽」が大切に伝えられています。

これらの農林業と伝統文化は、日本の原風景として重要であるだけでなく、世界的にみても極めて貴重なものです。

### 3. 認定の意義と今後のスケジュールについて

世界でも貴重な農林業と伝統文化を伝える本地域ですが、激しさを増す国際競争や農林家の高齢化など、大きな課題に直面しています。

この状況を克服するためには、地域の農林業の魅力を再発見して世界にアピールし、地域の活性化に繋がる「世界農業遺産」への取り組みが必要です。

今後のスケジュールとして、現在、農林水産省による国内候補地の公募に向けて活動しています。10月下旬に国内候補地が決定され、その後FAOへの申請となります。

先人から受け継いだ森林や農地、伝統文化を未来に繋ぎ、本地域の魅力を世界にアピールするため、応援をよろしくお願いいたします。